

令和8年度 幼児教育研修（施設長研修）

保育の質を高めるための施設長としての役割とは

日時：令和8年5月19日（火）14：45～16：45

会場：生涯学習センター

講師：元明治学院大学 特命教授 田代 恵美子氏

施設長の使命は何か！



ズバリ 残念な管理職の特徴とは (部下から信頼されない)



- 1 責任感がない（責任を部下に押し付ける）
- 2 優柔不断で決断力がない
- 3 人と関わる力が弱い
- 4 自分を優先する、自分に甘く、人に厳しい
- 5 勉強しない、情報収集力が乏しい
- 6 行動力が欠落している
- 7 部下のよさを見付けられない、ほめられない

では…

施設長に必要な
資質・能力は…



～施設長に求められる資質～

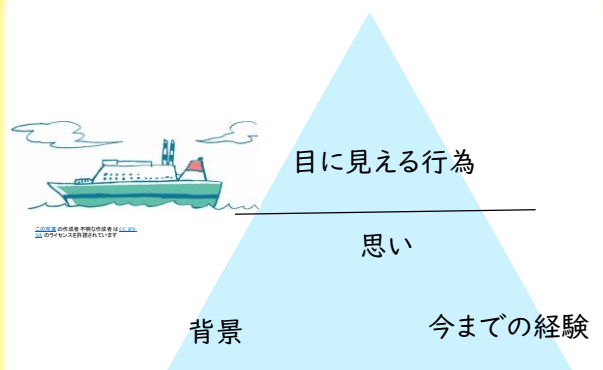
◎人としての人間性、人間力

責任感を発揮していますか？
人を大事にしていますか？

人を生かしていますか？

理想の施設長像を描いていますか？

人間理解



ポイント

分かろうとする、肯定的に寄り添う

～施設長に求められる能力～

◎教育者としての能力

- ・教育の本質を捉える専門家としての能力（知識、技能）
- ・時代を読む力、対応する力
- ・行動力、仕事力、思考力、判断力、表現力
- ・向上心（学びに向かう意欲）
- ・責任感

ワクワクして夢中になる＝心が動くこと
心が動くのは1回だけじゃない!!

『とうきょうすくわくプログラム』
がまさに「ワクワク」そのもの!
子どもたちをどんな子に育てたい?心を揺さぶりたい?何を目的とするの?
「その先のこと」も考え、長いスパンで何をどうしていくか考えよう!



※『とうきょうすくわくプログラム』とは…すべての乳幼児の「伸びる・育つ(すくすく)」と「好奇心・探求心(わくわく)」を応援する幼保共通するプログラムです。

社会が大きく変わりつつある今、 幼児期の教育で大切にすべきことは何か

- 「想定外のことに対応できる能力」
- 「自分で有益な問題や課題を見つけ出す能力」
- 「不思議を感じる感性」「人と協働する力」
- 「今までなかった新しいものを生み出す能力」
- 「従来の方法では解決できなかった問題を新しい視点から捉え分析し解決していく能力」が必要である。

※「幼児教育じほう」2023年1月号 東京理科大学名誉教授 秋山仁教授の論説

質の高い幼児教育を受けることにより

◎子ども時代に感動した原体験こそ創造力や自分で

工夫し考える力の源になる

特に「ワクワクして夢中になる」に焦点を合わせる

「自然の中には面白いもの、不思議なものがたくさんあふれていることを実感させてほしい」

「世の中や自然の中に存在しているものや行われていることの多くには、それなりの理由(理屈)があるということを日頃から気付かせてほしい」

「創造的な仕事をする大人の存在」

「人と関わる力」

「モラルや他人を思いやる力」



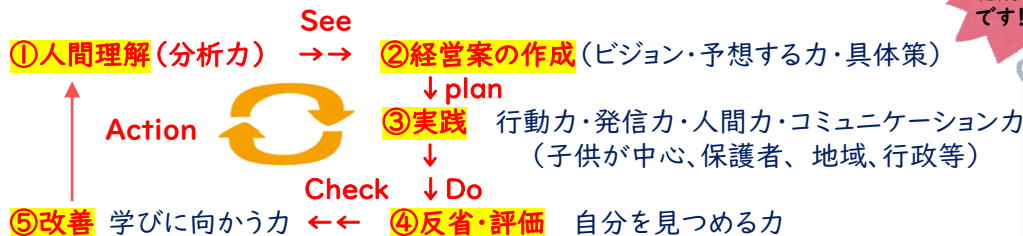
幼児教育への投資の効果

- ・ その後の学習の向上や、将来の所得向上、
- ・ 犯罪率の低下等につながる

では、職員が質の高い幼児教育をするために安心して自己発揮できる職場とは?

- ☆安心感がある(居心地がいい、自分らしくいられる)
- ☆関わる楽しさが味わえる
- ☆目標が明確である(協働性)
- ☆めあてや見通しがもっている
- ☆認め合い、支え合い、高め合える職場(信頼関係)

園経営と組織の質の向上(組織の質の向上に必要なSPDCAサイクル)



全ての根底は
施設長の人間性
です!

先生からのエール

未来は皆さんにかかっています!!

専門職であることの誇りと自覚を、そして、ビジョンもしっかりもって!!
人間力を磨く努力を!!

研修生の施設長としての意欲(当日グループでの話し合い)内容と報告書より(抜粋)

- 「一緒に考えていこう」としている。先生たちのメンタルが大事。先生たちが楽しいと、子どもたちも楽しいと思うので、そこを大事にしてコミュニケーションをとるようにしている。【グループ話し合い内容より】
- 専門知識だけでなく、人間性や判断力、行動力など総合的な能力が必要であることを学びました。また、職員同士が認め合い、支え合える環境づくりが、保育の質向上につながることを再認識しました。子どもたちが主体的に学び、安心して過ごせる環境を整えるためにも、日頃からコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いていくことが重要だと感じました。【報告書抜粋】
- どんな職業でも同じかもしれませんが、人として人間として大切なことが身についているかどうかという部分を、育て学び合うことが大事なのだと思いました。【報告書抜粋】

